

荒川尻焼 (あらかわじりやき)

白岩焼系統の窯で、幕末から明治のはじめにかけて田沢湖神代荒川尻に伊太郎、和兵衛、惣五郎の3つの窯があったと伝えられているが、所在は確認されていない。今回紹介する3点は荒川尻で作られたといわれており、皿、人形、位牌と用途は異なるがそれぞれ趣のある品々といえる。

秋田県指定有形文化財 (工芸品)

- ・名 称 染付磁器荒川尻焼大皿 (そめつけじきあらかわじりやきおおざら)
- ・指定年月日 昭和31年5月21日
- ・所在地 角館町表町下丁 (陶 正道氏 所有)
- ・大 き さ 径 26.1cm

高台内に「元治二仙北 荒川尻山製」の紀年銘があり、元治2年(1865)は明治になる3年前で143年程前に焼かれたものとなる。当時、染付磁器は高級品で、多くは肥前(伊万里)からの供給であったようだが、この頃には秋田でも磁器が生産されるようになっており、太白焼たいはくやきといわれていた。県内で焼かれた数少ない磁器の識別は大変難しく、紀年銘などがあるものは大変貴重なものといえる。



(参考文献 秋田県教育委員会 発行 「秋田県の有形文化財」)

市指定有形文化財 (工芸品)

- ・名 称 荒川尻焼 恵比寿人形 (あらかわじりやき えびすにんぎょう)
- ・指定年月日 平成4年12月4日
- ・所在地 角館町中町 (冨木憲吉氏 所有)
- ・大 き さ 高さ 17cm

荒川尻焼での陶師匠として招かれていた角館町横町の佐藤武兵衛の作品で、豪快なへら彫りで、顔の表情や動作を描き、緑、黄、白、3色のほどよい配色など、格調高い恵比寿人形となっている。武兵衛の作品はほとんど残っておらず、この作品は優れた一品であると共に荒川尻焼の作例を伝える資料としても貴重である。



市指定有形文化財 (工芸品)

- ・名 称 陶器製位牌 (とうきせいはいはい)
- ・指定年月日 昭和37年5月30日
- ・所在地 田沢湖梅沢字西田 (佐々木惣吉氏 所有)
- ・大 き さ 高さ 32cm

和兵衛窯で焼かれた位牌で、非常に珍しいものです。これは、和兵衛が瀬戸窯を設置する際適当な場所がなく、惣左衛門(現所有者の先祖)所有の原野を借りて窯を作った関係で、この位牌を作ったものと伝わっている。

表面には「新坂元 玉室妙圓信女 位」とある。

